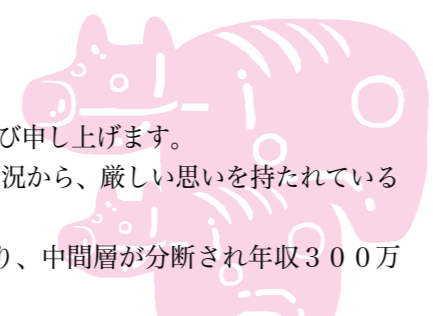


ごあいさつ



皆様それぞれに抱負をもって新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。
年の初めにもかかわらず、アメリカの金融危機に始まった世界同時不況から、厳しい思いを持たれている方も多いはずですが。

「1億総中流」と言われた日本社会に格差が拡大し、家計所得は減り、中間層が分断され年取300万円以下の勤労者は40パーセント近くにまでなっています。

派遣切り、最低賃金ストレスで豊かになれないワーキングプア、介護ヘルパーはやめていき、医療現場は過重労働にあえぎ、産科・小児科は姿を消してしまう、年金も不安……。

日本社会全体がしっかりとした軸のないまま漂流し、政治は旧来の利権構造を死守し、地位を守ることに右往左往している一方、社会保障の予算は削減され、医療は私たちの安心を守れず不安を与えるところまでほころんでいます。そしてそのツケは子どもや孫の世代へと回されていくしかないのです。

私は政治活動を始めて20年、国会に議席をいただいて15年以上になりました。なぜこんな事態になったのか、自らの非力をおおびするしかない、そんな思いにもとられます。

しかし、私たち主権者である国民が政権を握り、きちんと政府を運営し、議会を運営しなければ、適切な資源配分も、生活をするうえでの豊かさのある成長もできないのです。私は、一人一人の自立と公正な市場経済の成長発展のためにも、まずは憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」が必要で、医療と教育を先進国にふさわしいものに立て直すことが喫緊の課題だと訴えてきました。

すでに事態は猶予のできない状態に煮詰まっています。一刻も早く政権交代を実現し、新しい資源配分のできる政府をつくる、新しい希望をつくる、その意気に燃えております。

今年おこなわれる衆議院選挙で必ず政権交代を実現しましょう。徳島で、四国で、そして全国で政治を変えるために、皆様方とともに「希望を作る」ために、私は全力で頑張ります。

どうか皆様方におかれましても、引き続きご友情とお支えをくださいますようお願い申し上げます。あわせて皆様健康第一にご自愛くださいますようお願いいたします。

2009年1月吉日

仙谷由人



2008年8月14日 3年ぶりの阿波踊り、「まんじ連」の先頭を踊らせていただきました。

<http://y-sengoku.com/>

1059
希望を作る



2009年1月25日
vol.30

Sengoku Yoshito

この国に
希望を作る

仙谷由人全国後援会機関紙
仙ちゃんレポート



撮影：蛭田有一氏

<http://y-sengoku.com/>

2008 photo Calendar 活動の軌跡



1月11日 本会議でテロ新法再議決反対の討論に立つ



2月11日 超党派議員団で訪韓
*李明博大統領と面談、就任式典に出席



12日 「医療現場の危機打開と再建を
めざす国会議員連盟」結成、会長代行に選出

13日 政策フィールドワーク
徳島県上勝町「彩」視察

3月11日 日銀総裁人事
議院運営委員会で武藤敏郎候補に質問
「ニュース23」出演 日銀総裁人事について
*財金分離の必要について、
この間複数メディアで言及



4月13日 政策フィールドワーク
山形県長井市「レインボープラン」視察
*生ゴミを堆肥へリサイクルし、
有機農業へつなげる取組を視察

6月30日 政策フィールドワーク
秋田県小坂町「小坂銅山」視察
*銅山が携帯電話から貴金属を抽出する
技術によって復活した取組を視察



7月 4日 政策フィールドワーク
大分県竹田市「九重野地区農業」視察
*限界集落に近い山村での農業の現状を視察

29日 外務大臣へ米軍低空飛行問題で
飯泉知事とともに申し入れ

8月27日 福島県大野病院事件無罪判決、シンポジウム
その後、法務大臣に控訴断念を申し入れ
(無罪確定)*改めて医療事故に関し、
真相究明のための第三者委員会の必要性を確認

11月 8日 「現場からの医療改革推進協議会」シンポジウム

12月 5日 衆議院予算委員会で麻生総理を追及
*2兆円給付金の問題点と、
医療の建て直しの必要に言及

ご寄附のお願い

昨年は、12月9日に行いました「仙谷由人と希望を作る集い」では、多くの方々にご協力、ご出席いただきましたことを御礼申し上げます。
今年は間違いなく、天下分け目の総選挙です。仙ちゃんとスタッフ一同元氣いっぱい頑張っております。今後とも皆様の力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

●口座名 「仙谷由人全国後援会」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 銀座支店 普通預金 3572391

郵便振替 00170-4-187008

※2009年1月の政治資金規正法改正により、ご寄附をいただけるのは個人のみになりました。

お問い合わせ

仙谷由人
全国後援会

仙谷由人全国後援会事務局：〒105-0003 東京都港区西新橋2-19-2 西新橋YSビル2階 tel.03(3508)8023 fax.03(3508)3235
東京事務所：〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第1議員会館235号 tel.03(3508)7235 fax.03(3508)3235
徳島事務所：〒770-8053 徳島県徳島市沖浜東1丁目64番地 仙谷由人後援会事務所 tel.088(626)1059 fax.088(655)9130
URL: <http://y-sengoku.com>
E-mail: office@y-sengoku.com



←QRコードを携帯電話で読み取ると、
仙谷由人携帯サイトを見ることができます。



これからの徳島・日本の 理念を紡ぎだす



仙谷由人

「つながり」の喪失

日本社会。「いったいどうなってしまったのだろう。どこへ行くのだろう。」と誰もが思っています。振り込め詐欺、耐震偽装、食品の産地偽装と、「金のためなら人を騙して何が悪い」という犯罪が後を絶ちません。

その「自分さえよければ・・・」という思いの蔓延が人に向かうとき、通り魔の続発、少年犯罪、近親殺人など、血も凍る恐ろしい犯罪となります。ここでも凶器の向かう先は、国民です。

これらの問題はすべて、人と人との「つながり」が失われ、誰もが自分だけの世界に逃げ込んでしまった末、社会に生じたほころびと亀裂です。

そしてその社会はこの一〇年、その亀裂を出来るだけ隠そう、そのために市場原理主義と規制緩和、つまり金融を中心としたバブル経済と輸出に頼って経済成長を続けることで国民の目を逸らせてきました。

しかし、昨年九月の世界の金融と実体経済の崩

壊を目の当たりにし、社会の亀裂も次々と現れてきています。

価値観の転換点

今や、世界もそして日本も、理念（アイデンティティ）、そして、他者とながらる力を失いつつあります。これまで急激に広げられたグローバルイズムに対して、個人も企業活動もどうやって生きていくのか、他者とながらっていくのかを見失っています。戦後一貫して政治から提供されてきた、「経済成長（お金で計る豊かさ）」に代わる価値観、理念と生き方を日本人は求めています。時代の大きな転換点に私たちは差しかかっています。

「泥の文明」：自然、いのち、共生の社会

いま、なぜあえて理念（アイデンティティ）なのか？ 政治家は政策を語れとよく言われます。しかし、政策は手段です。ならば手段を語る前に、



2008年4月13日 山形長井市「レインボープラン」視察

そこに田を作り、毎年同じように食物を提供してくれる自然の中に定住し、自然からの恵みを受け、それを有効利用してきました。

収穫量を上げて豊かになるために、水田の品質管理や、天候、病害虫に耐えるための品種改良といった工夫へと努力がなされ、その間に水田の泥は蓄積し、その泥がいつそう豊かな食物を人々に与えます。

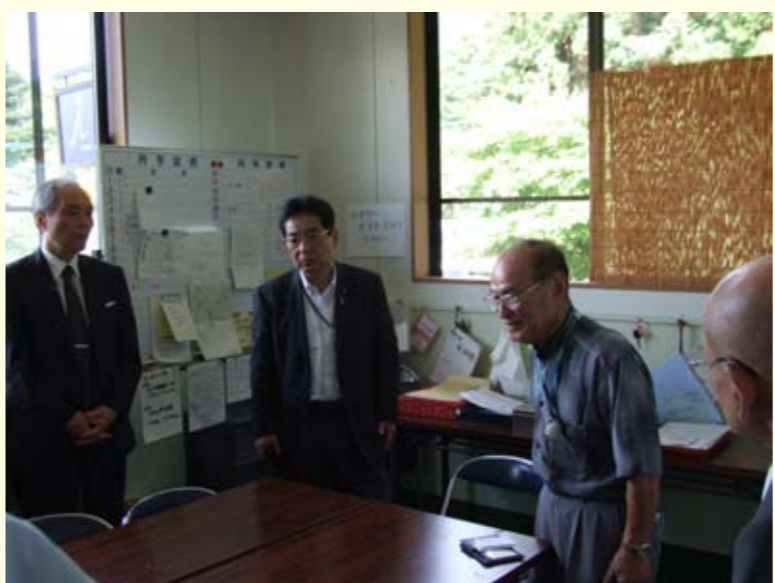
こうして泥の文明では、農耕を維持する相互扶助のシステムの中から、共同体に富を蓄積するために、「所懸命」にあらゆる努力が払われるようになっていきます。「一粒の米の中に、一つの水田の中に、一つの家の中に、一つの村の中に、

上勝町の「彩」(Irisu)

「自然のいのち、共生の社会」は決して夢ではありません。むしろ、すでに私たちの身近で思っています。その可能性を私は徳島県上勝町の「彩事業」にみてとっています。

彩事業は、山の木の葉や花を日本料理のつまものとして収集、販売する事業です。当初は、葉っぱがおカネに化ける話など誰からも相手にされませんでした。しかし、農協の営農指導員であった横石知二氏らの奮闘努力によって、いまや徳島県を代表する産業に成長しました。

「世界中探したって、こんな楽しい仕事ないですよ」とおばあちゃんが言います。年収一〇〇〇万円のおばあちゃんもいます。町に活気もどりました。お年寄りだからできる仕事が生み出されたことで、上勝は「みんなが働ける社会」になりました。UターンやIターンで若い人が集まるようになり、人と人とのつながりが強化されていきました。山という「自然」の恵みを賜物とし、それと「共



2008年7月4日 大分県竹田市「九重野地区農業」視察

「こうありがたい社会」、そこに至りたいという目的地としての「社会像」の方が重要なのだと改めて思います。

私の大学時代からの友人であり思想家の松本健一氏は、日本を「泥の文明」と示しています。

棚田・里山に象徴される、豊かな土壌である「泥」と暮らすことを選択した祖先が、その生活の中から生み出した「共生」の価値観、自然のなかで、人と人とのつながりの中で生かされて、その風土や人間関係を愛しみ、その切れ端すら「もったいない」と尊ぶという価値観こそ、私たち日本人が拠って来たと言うのです。



2008年6月30日 秋田県小坂町「小坂銅山」視察

の存在を認め、共感を共有しながら、共に存続・成長・繁栄していくことにあります。

「おかげさま」「おたがいさま」と私たちがよく言うとおりの、「いのち」は、独りで存在するものではなく、環境によって生かされ、他の「いのち」とのつながりによって生かされる存在です。この信念は、泥の文明の中で、自然の恵みに感謝しつつ、絶えず手入れの必要な田畑でのお互いの共同作業を通じて、紡がれてきたものです。生きていく上で人と人とのつながりの重要性を実感することの繰り返しのなかから生まれ、育まれてきたものです。

自己責任の名の下に、他者との関わりあいから恩恵を受けておきながら、都合のよい時だけ他者との関係を断とうとするのは欺瞞（ぎまん）です。人間は、長い生活の歴史の「こま」として、両親の出会いによって生を受け、人間の社会の中で自然や他者との関わりあいを学び、一個の人格として生きるようになります。この世の中に不要な物も人も存在しません。ゴミと思われていた物でも、新たな役割がみつかつて、資源として生まれかわる。すべてその人のみ、その物のみもつ役割と使命があるのである。

市場競争の強者がワーキングプアに向かって「努力が足りない」と言い放って無関心をきめこんだり、逆に「勝ち組はみんな死ぬばい」という怨嗟（えんさ）の声に共感があつまるような社会では、いのちが尊重されてきません。

政府の役割は、そうした分裂をつなぎとめて、社会のバランスを取り戻すことです。政治家は、国民が、人と人とのつながりを回復し、統合された「人間」としての立場を取り戻すべく、社会全体の発展と子孫の繁栄のために国民一人ひとりが



2008年2月13日 徳島県上勝町「彩」視察

生」することで成立した彩事業。葉っぱ採りに生きがいを見出し、いきいきと「いのち」を輝かせるおばあちゃん。活気もどることで、人と人との「つながり」が強まっていく地域社会。

いまでも上勝では、いのちのつながりが、将来の世代に向けて紡ぎだされています。

「健康で文化的な最低限度の生活」を作る

「共生」、「つながり」とは、単に共に生きるというだけにとどまりません。共生の本質は、相手

何を望むかを率直に問う勇氣と英知とをもたなければなりません。

一九三二年に大統領に就任し、大恐慌からアメリカの復活を成し遂げたフランクリン・ルーズベルトはその演説で、「この国では誰もが飢えに苦しむことはない」と宣言し、こう続けます。

『生活に足る賃金 (Living wage)』に満たない給与を労働者に支払うことでしか生き残れない企業は、この国に居続ける権利はない。ここでいう「企業」とはすべての産業、すべての商取引であり、ここでいう「労働者」とはすべてのホワイトカラー、すべての肉体労働者、農民である。そして、『生活に足る賃金 (Living wage)』とは、単に生存に必要な水準ではなく、まともな生活ができる賃金のことである。』

いまこそ日本国憲法二五条に記された「健康で文化的な最低限度の生活」を改めて問い直すときです。単なる労働者保護でなく、誰もが、その役割を果たせるようにするという観点から、労働政策・福祉政策を抜本的に見直さなければなりません。

使い捨てでなく、労働力を育てる雇用でなければなりません。元受け企業も下請け企業も、共に存在し、繁栄できる関係が作られなければなりません。そして、誰もがその使命を全うできるよう、十分な教育と医療とが確保されなければならないのです。

生きる希望のない社会とは決別しなければなりません。私は、すべての人が互いに価値を認め合い「希望を作る社会」を構築していきます。